

令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

『山海の恵みに感謝 海の子うきうきプロジェクト』

越前町立四ヶ浦小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成

(2) 協議会の内容

構成員 10名
地域 4名 学識経験者(2)
地域住民(1)
四ヶ浦保育園長(1)
家庭 1名 PTA副会長(1)
学校 5名 校長・教頭・教務主任
生徒指導主事・保健主事
※地域コーディネーター(2名)
越前地区区長会長(学校関係者評価委員長)
越前地区老人会会長(越前かたりべの会)

※開催回数	○定例会	年4回
※開催日程	○第1回	5月21日
	○第2回	8月27日
	○第3回	1月14日
	○第4回	1月30日
※協議内容	○教育力の向上	
	○家庭や地域全体の教育	
	○学校評価について	

(3) 協議会における成果と課題

学校の教育活動の中に、保護者や地域の方々、関係機関等との連携を毎年計画的に位置付け実施して、協議会の方々に助言をいただいて地域に根ざした「海の子」を育むことができた。

課題として、協議会の開催日に仕事でどうしても都合がつかないために全員が参加して協議することができないことがあげられる。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の産業である漁業、観光、またそれに関わる仕事体験や作物の栽培活動、地域の特色の情報収集・発信活動を通し、郷土のよさを発見し、郷土への愛着心を育てる。自分たちの力が地域の活性化につながるという自己有用感を育てる。

(2) 活動の実際

学校のある越前地区の特徴は、なんと言っても海・山の自然。その海・山を生かした産業や観光を考えたり恵みを感じたりするための実践を行ってきた。

①地域で捕れた魚介を題材にした絵手紙教室の実施

京都で絵手紙教室の講師をしていらっしゃる本校出身の方を招き、3年生児童を対象に、地元で捕れた魚介を絵に表す事業を行った。地域コーディネータの方が声をかけてくださり、地元の漁師や旅館業を営む方々から新鮮な魚介を手配していただいた。児童は、獲れたての魚介を前に、講師の先生のお弟子さんに手ほどきを受けながら、段ボールに絵手紙風の作品を仕上げた。最後に、「越前の海」と題し、全員で大きな紙いっぱいに魚や貝、海藻などを描き、豊かな海



を表現した作品を作った。

できあがった作品は、児童玄関前に、保護者や来校者を賑やかに迎え入れるように掲示した。

②町花（県花）「すいせん」で学校をきれいにしよう運動

本町（本県）の花は「すいせん」である。本校は、水仙群生地の一つである越前地区にあり、至る所で水仙畑が見られる。しかし、学校の周りにはわずかな数しか見られず、3年生の児童から「水仙で学校をきれいにしたい」との声が上がった。地域コーディネータの方に伝え、と、「水仙について学習しよう」と計画を立ててくださった。

まず、校区内にある水仙アートクラブの方をお願いして、水仙を使った押し花体験のレクチャーを受けた。児童は一人一人ラミネートした作品を額に飾ってオリジナルの作品を完成した。

秋には、学校で保管している水仙の球根を、グラウンドの周りに植えた。冬になると葉が出始め、成長の様子の記録をはじめた。花が咲く冬には、学校の周りに咲き始めた水仙を摘み、教室等に飾った。本年度は、収穫が少なかったが、栽培量を増やし、来年度以降、道の駅やかに祭り等で「四ヶ浦小の水仙」として配布を考えている。



（3）地域コーディネーターの活動概要

- ・地域の題材の選定についてのアドバイス。
- ・題材と児童をつなぐ人材へのアポイントを取る。
- ・教師以外の方から、活動の様子を見てもらい、有益な評価をいただくことにより、児童の自己肯定感が増した。
- ・ご自分の小学校での経験や将来の地域の未来について語っていただくことで、地域への愛着心を育てた。



（4）特に工夫した事項

四ヶ浦小学校の卒業生に講師を依頼して、京都在住の方や越前地区に住む地元の方を児童の学習活動に活用できた。

越前地区が全国的にも自慢できる「越前がに」や「越前水仙」を教材にして、福井県教育大綱にある福井県を愛する「ふくい愛」を児童に育むことができた。

（5）成果と課題

- ・身近な場所や事柄をもとに学習を進めていくことで、児童が主体的に計画したり話し合ったりしていた。
- ・担任や教員が、地域の題材に改めて気付いたことで、地域の人材を生かした学習を展開することができた。
- ・地域の探索活動が中心となり、発表したりPRしたりするような場の設定が十分にできなかった。活動のゴールをしっかりと決め、計画的に取り組まなければならない。